

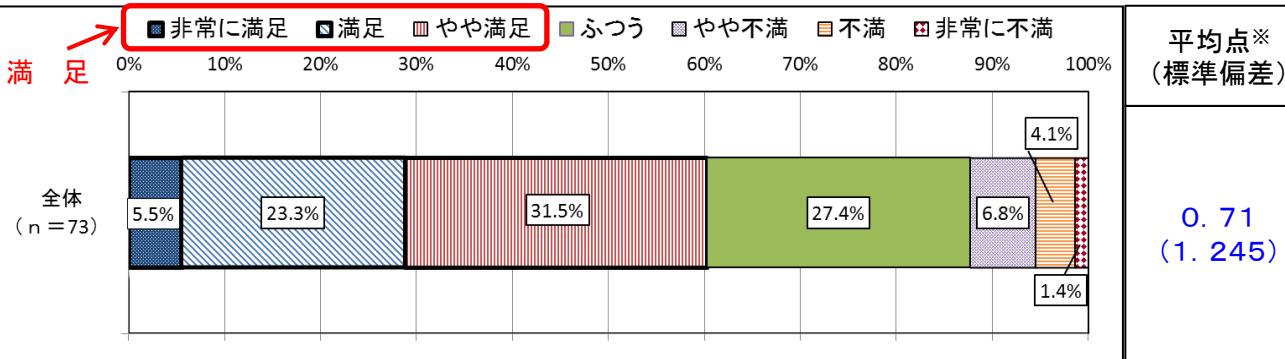
# 平成27年度 漁業担い手満足度調査報告書【概要版】

岩手県農林水産部水産振興課  
平成28年1月

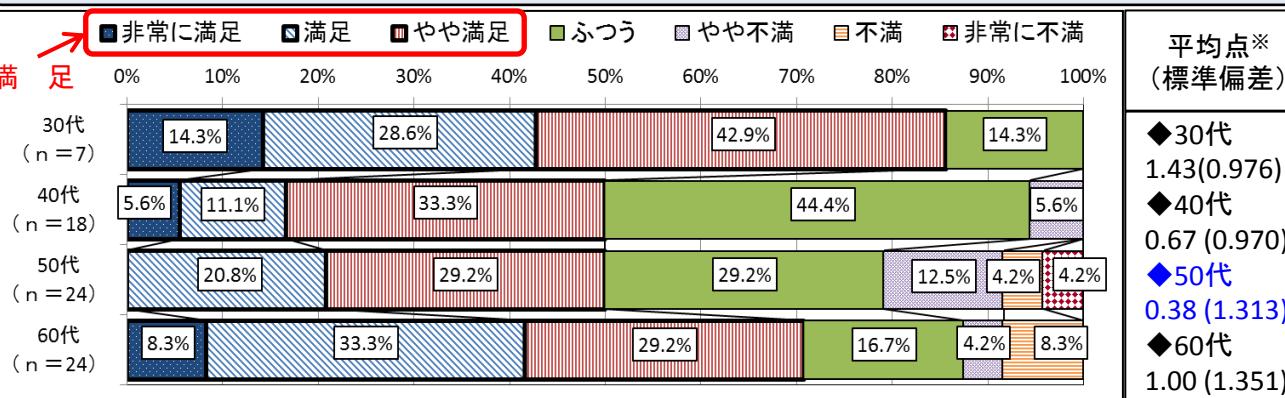
- ◆ 調査の目的  
本県におけるなりわいとしての漁業の魅力について、漁業担い手の満足度を指標として定量化するとともに、その影響要因を明らかにし、漁業担い手対策の参考とするもの。
- ◆ 調査対象 岩手県漁業士 94人（平成27年9月15日現在の名簿登載者）
- ◆ 調査時期 平成27年9～10月
- ◆ 実施主体 岩手県農林水産部水産振興課
- ◆ 回収結果 有効回収率77.7%（有効回収数73人） ※ アンケート調査（郵送法）

## 1 総合満足度（漁業就業に対する満足度）

- ◆ 全体
  - ・ 構成比では、漁業者として働いていることに満足している回答者（「非常に満足」、「満足」又は「やや満足」の何れかを選択した者）は約6割を占めます。
  - ・ 3点（非常に満足）～－3点（非常に不満）で採点した場合の平均点※は、0.71点です。



- ◆ 属性別（年齢階層別）
  - ・ 構成比では、漁業者として働いていることに満足している回答者は、「30代」では8割超であるのに対し、「40代」と「50代」は約5割にとどまっています。
  - ・ 平均点※では、「30代」の1.43に対し、特に、「50代」が0.38と顕著に低い状況です。
  - ・ 「40代」や「50代」は各地域を支える主要な担い手であり、漁業の魅力を向上させるためには、この年齢階層の視点からの就業環境の改善対策が必要です。



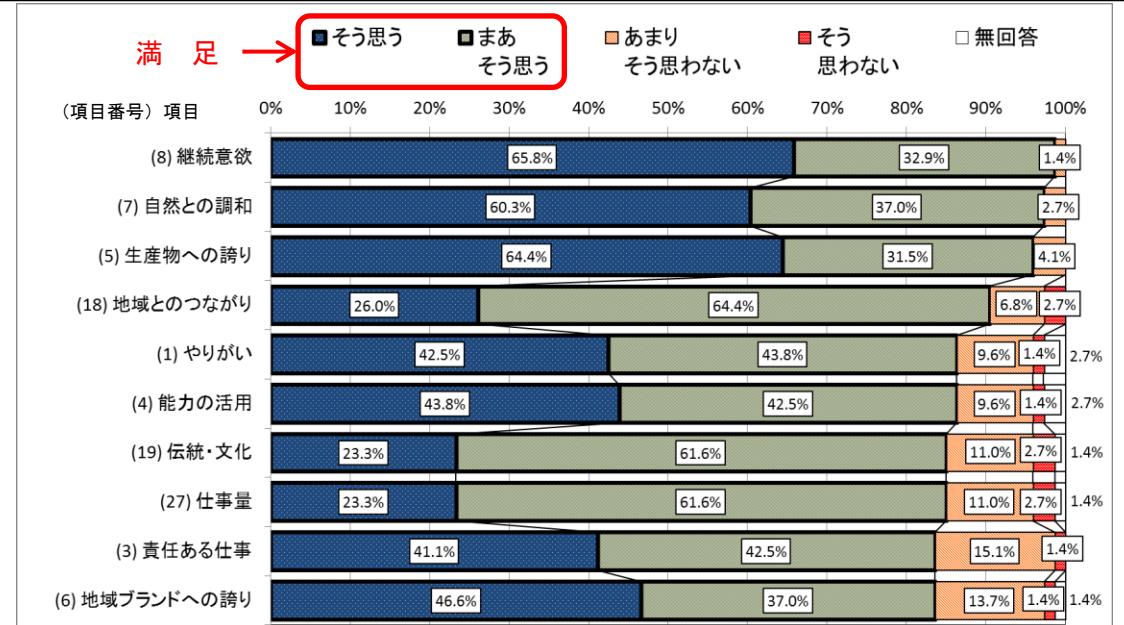
※ 総合満足度（平均点）は、次の式により求めました。

$$\text{総合満足度 (平均点)} = \frac{(\text{非常に満足} \times 3) + (\text{満足} \times 2) + (\text{やや満足} \times 1) + (\text{ふつう} \times 0) + [\text{やや不満} \times (-1)] + [\text{不満} \times (-2)] + [\text{非常に不満} \times (-3)]}{(\text{全回答者数})}$$

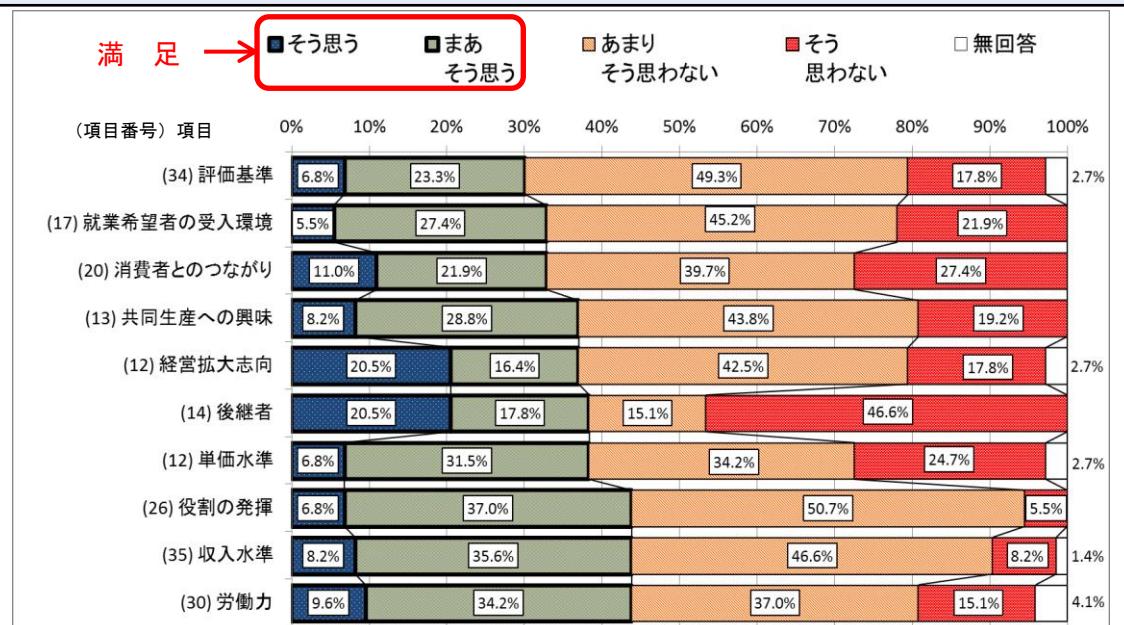
この算出方法では、平均点は－3.00点～3.00点の範囲となり、0.00点が中間点となります。

## 2 個別満足度

- ◆ ベスト10項目  
40項目のうち、個別満足度（「そう思う」と「まあそう思う」の構成比の合計）が高いものは、順に「継続意欲」、「自然との調和」、「生産物への誇り」、「地域とのつながり」、「やりがい」、「能力の活用」、「伝統・文化」、「仕事量」、「責任ある仕事」、「地域ブランドへの誇り」となっています。



- ◆ ワースト10項目  
40項目のうち、個別満足度が低いものは、順に「評価基準」、「就業希望者の受入環境」、「消費者とのつながり」、「共同生産への興味」、「経営拡大志向」、「後継者」、「単価水準」、「役割の発揮」、「収入水準」、「労働力」となっています。



【裏面あります→】

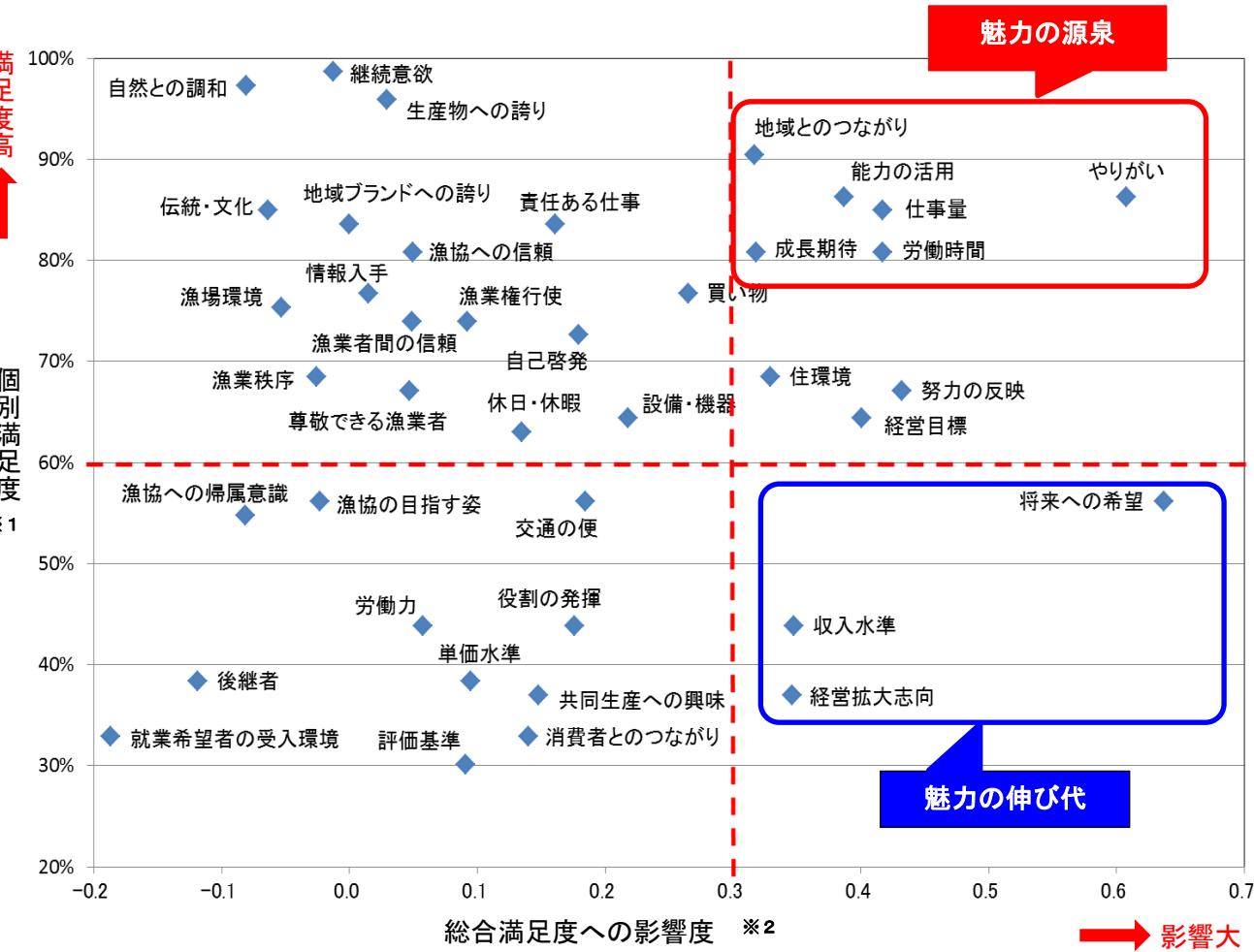
### 3 満足度構造分析

総合満足度に影響する要因を明らかにするため、個別満足度を縦軸、個別満足度が総合満足度を与える影響度（単相関係数 r）を横軸とする散布図を作成しました。

個別満足度が高く、総合満足度への影響度も高い項目をなりわいとしての漁業の**魅力の源泉**と考える場合、「やりがい」、「仕事量」、「労働時間」、「能力の活用」、「成長期待」、「地域とのつながり」が該当し、今後もその水準を維持しながら各地域の就業実態を交えて具体化することで、地域提案型の価値としてPRすることが可能です。

特に、漁業には朝が早く、仕事がついとイメージがつきまといりますが、本調査では「仕事量」と「労働時間」について8割を超える回答者が満足し、「成長期待」や「やりがい」等とともに就業そのものの満足に大きく影響していることは、今後の本県の漁業担い手対策を考えるうえで注目に値するものです。

一方で、総合満足度への影響度が高いにもかかわらず、個別満足度が低い項目を**魅力の伸び代**と考える場合、「将来への希望」、「収入水準」、「経営拡大志向」が該当し、魅力の更なる向上のためには同項目の水準の向上が必要です。



※1 個別満足度に係る各設問に対する、「そう思う」と「まあそう思う」の構成比の合計  
 ※2 総合満足度の評価と個別満足度の評価との関係（単相関係数 r）

単相関係数 r：2つの要因について関係の強さを示す「ものさし」であり、-1～1の値を取り、-1又は1に近いほど「関係が強く」、0に近いほど「関係が弱い」ことを示します。

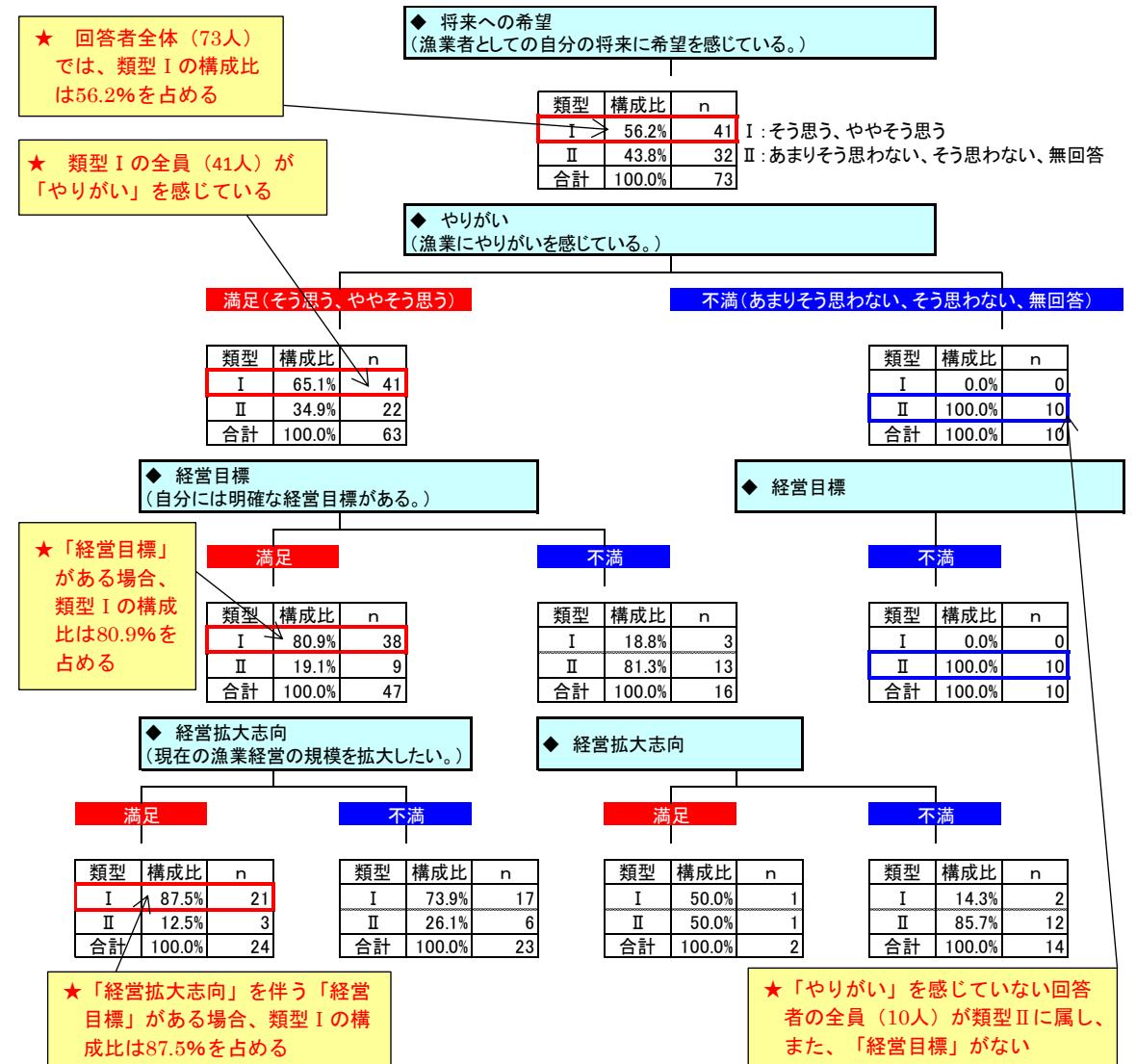
### 4 特性分析（「将来への希望」の有無別）

満足度構造分析の結果から、魅力向上のためには、「将来への希望」、「収入水準」、「経営拡大志向」の水準の向上が不可欠であることが明らかとなりましたが、特に「将来への希望」は漠然としており、対策の働きかけの対象を明確にする必要があります。

「将来への希望」の特性について、他の個別満足度との関係を分析し、比較的相関が高い「やりがい」（r=0.67）、「経営目標」（r=0.65）、「経営拡大志向」（r=0.54）との関係を整理しました。

「将来への希望」に満足している回答者（類型I）に注目すると、全体の構成比は56.2%ですが、「経営拡大志向」を伴う「経営目標」がある回答者に絞り込んだ場合、その構成比は87.5%を占めています。

「将来への希望」の個別満足度を向上させるためには、個々の漁業経営体の経営方針に配慮しつつ、「経営拡大志向」を伴う「経営目標」をもっていただけるような支援対策が必要です。



県は、漁業協同組合、漁業関係団体及び市町村などの関係者と連携し、今回の調査結果等を参考としながらなりわいとしての漁業の魅力を積極的にPRし、新規漁業就業者の確保に努めていきます。また、関係者と連携して魅力の向上に取り組みながら、本調査を定期的実施し、その取組の効果を把握・評価していきます。